

東北地方における鉄道の名称に関する史的研究

岩手大学 正員 安藤 昭
 岩手大学 正員 岩佐 正章
 岩手大学 学生員 ○ 鈴木 博之

1. はじめに

近年の鉄道は、駅舎や車両を新しく整備したり優等列車の設定など乗客のニーズに答えた質の高いサービスが増えて変化しているが、路線の名称はあまり変化せず、開通当時の名称の路線が多い。

そこで今回は、現在までの東北地方における鉄道路線名と駅名改称の歴史を調べ考察する。

2. 東北地方の鉄道交通の概要

明治20年 7月、東京の上野から福島県の郡山まで私鉄である日本鉄道（現JR東北本線）が開通、明治24年 9月には、青森まで開通させ、同区間は約27時間で結ばれることになった。東北地方に、本格的な鉄道交通時代が到来したわけである。

これをきっかけに、明治31年 8月には日本鉄道磐城線（現JR常磐線）が、明治38年 9月には国営の奥羽本線がそれぞれ全通した。そして岩越鉄道（現JR磐越西線）・羽越本線が開通……と、現在の幹線網は、大正後半までにほぼ完成した。

この間、幹線私鉄の国有化、日露戦争等での鉄道の軍事利用強化の時代を経て、明治後半から地域の発展という趣旨で鉄道が建設されるようになり、大船渡線のような地元政治家による鉄道誘致いわゆる「我田引鉄」が多くなった。

第二次大戦後の高度成長では、鉄道の旅客・貨物輸送量はともに増加した。しかし、この高度成長による自動車の普及等の影響で日中線等の国鉄赤字ローカル線や花巻の軌道等の地方私鉄のように、廃止・転換される路線が出てきた。

そのようななか、昭和57年 6月大宮・盛岡間に東北新幹線が開通し、東北地方における高速鉄道時代のさきがけとなった。

昭和59年 3月には、国鉄ローカル線の久慈線・宮古線・盛線が廃止され、同年 4月に東北初の第三セクター鉄道が誕生した。

そして、昭和62年 7月、仙台市内に地下鉄が開通し、平成 4年 7月に山形新幹線が、平成 9年 3月には秋田新幹線がそれぞれ開通した。

この間、路線の開通・廃止・第三セクター化・

国鉄民営化等が実施され、平成10年 1月現在、東北地方には、JR新幹線が 3線、JR在来線が29線（うち幹線は 7線）、私鉄線が 7線、第三セクター線が 9線、公営線が 1線の全49路線の鉄道網（貨物線・索道等を除く）となっている。

3. JR線の路線名称の分類

現在のJRの路線名称をみると 4種類に分けられる。まず磐越西線のように 2つの旧国名の頭文字がついている路線名（Ⅰ型）、次に仙石線のように 2つの都市名の頭文字がついている路線名（Ⅱ型）、次に八戸線のように 1つの都市名がついている路線名（Ⅲ型）、最後に東北本線のように地域名がついている路線名（Ⅳ型）の以上 4種類である。

ここで鉄道路線を図1のように幹線路線（Aタイプ）、2つの幹線を結ぶ横断線（Bタイプ）、幹線等の路線とある都市とを結ぶ路線（Cタイプ）、その他の路線（Dタイプ）の 4種類にわけ、表1に路線とタイプを対応させ示す。

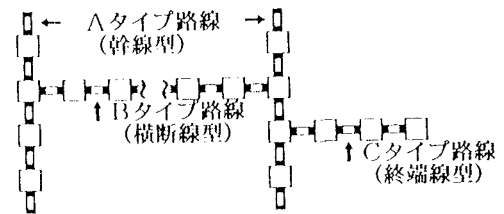


図1、路線タイプのモデル図

2つの旧国名の頭文字を連ねた路線名称（Ⅰ型）は幹線（Aタイプ）に、（Ⅰ型）の名称に東・西を付した路線名称や 2つの都市名の頭文字を連ねた路線名称（Ⅱ型）は、横断路線（Bタイプ）に、都市の名前がついた路線名（Ⅲ型）は、終端路線（Cタイプ）に付けられたことがわかる。

また例外として、田沢湖線・北上線が挙げられる。田沢湖線の前身である生保内線・橋場線が全通する際、2線を統合するために改称する路線名を、秋田県内の地名である田沢湖から採用して田

沢湖線とし、平行する横黒線を岩手県の地名から採用し、北上線と改称した。

このような例外を除くと、東北地方のJR路線の名称は、路線の機能に関係する称呼方法で付けられてきたといえる。

表1、路線名と路線タイプの対応

路線	分類名	路線名	起点	終点	路線タイプ
JR	国名頭文字型 (I型)	奥羽本線 (幹)	福島	青森	A
		常磐線 (幹)	郡山	沼津	A
		羽越本線 (幹)	新潟	秋田	A
	東西型	磐越西線 (幹)	郡山	新津	B
		磐越東線	郡山	新庄	B
		陸羽東線	新庄	余目	B
	都市頭文字型 (II型)	水郡線	水戸	郡山	B
		五能線	新井	川口	B
		米坂線	米沢	坂町	B
	都市名 (III型)	仙石線 (幹)	仙台	石巻	B
JR	都市名 (III型)	石巻線	石巻	大川	C
		大森線	大森	左沢	C
		左沢線	左沢	釜石	C
	地域名 (IV型)	山田線	山田	盛岡	C
		大船渡線	大船渡	盛岡	C
		八戸線	八戸	盛岡	C
	都市名 (III型)	花輪線	花輪	盛岡	C
		釜石線	釜石	盛岡	C
		北上線	北上	盛岡	C
	都市名 (III型)	田沢湖線	田沢湖	盛岡	C
JR	都市名 (III型)	男鹿線	男鹿	盛岡	C
		只見線	只見	盛岡	C
		岩泉線	岩泉	盛岡	C
	都市名 (III型)	気仙沼線	気仙沼	盛岡	C
		山形新幹線	山形	盛岡	C
		秋田新幹線	秋田	盛岡	C
	都市名 (III型)	東北本線 (幹)	東京	青森	A
		津軽線	青森	盛岡	A
		東北新幹線	東京	盛岡	A
	都市名 (III型)	海峽線	東京	盛岡	A

4. 私鉄、第三セクター線の路線名称の分類

私鉄路線は、大正から昭和にかけて、国鉄の幹線と地方都市・集落・観光地等を結ぶ路線として建設されたものが多く、これらは飯坂線等のように、都市や地域の名称を路線名として採用している。

次に第三セクター路線は、国鉄等からの転換路線が多く、その路線名を転換前の路線名から受け継いでいる場合がみられる。また一部の路線や会社の名称に、フラワー等の景観を連想させる言葉が付けられているのが、第三セクター路線の名称の特徴である。

まとめると表2のように、東北地方の私鉄の路線名は、終端駅等狭い範囲の地名に関する名称で、第三セクター路線の名称は、阿武隈等の広い範囲の地名や、沿線の景観・景勝地に関する名称で付けられてきたといえる。

表2、私鉄、第三セクター路線名称の分類

路線	分類名	路線名	起点	終点
私鉄 三セ	路線頭文字型	会津鬼怒川線 (野岩鉄道)	会津	新井
		三和線	三沢	市川
		三和線	三沢	大野
	旧国鉄	弘前線 (弘南鉄道)	弘前	黒石
		弘大線 (下北交通)	川部	大畑
		弘南線 (弘南鉄道)	弘前	黒石
	旧国鉄	阿武隈急行	福島	郡山
		会津線 (会津鉄道)	福島	郡山
		秋田内陸縦貫鉄道	秋田	角館
	沿線景観型	くりはら田園鉄道	石越	※
公営	路線方向型	南北線 (仙台市交通局)	仙台	高沢

※細倉メインパーク前

凡例：■私鉄線、□第三セクター線

5. 国鉄・JR線において改称された駅名の分類

東北地方で本格的に鉄道交通が普及しはじめた明治の後半から大正にかけて、駅名に会津や岩手などの地域を表す言葉を新たに付け加えたり、周辺の字が駅名になっていたものが、所在市町村名に改称されたものが多い。

前者は、鉄道の普及が進んだことにより同じ駅名が複数でき、それらを区別する必要があったからと思われる。また後者は、交通行動エリアの拡大に伴い、街の玄関口としての駅という意識が強くなったからであろう。

そして昭和が始まると駅名を、市町村の合併等により、合併後の都市の名称に改称したり、都市が広大になるにつれ、仙台南駅のように東西南北を付けた名称に改称するところが増えてきた。

またこの他に、あつみ温泉駅等のように観光誘致を目的とした改称、事業者転換に伴った改称が多くなった。

そして近年は、新幹線開業による平行在来線等のアクセス駅の改称が目立ってきている。

6. おわりに

これからの総合交通体系において、鉄道が都市高速交通や長距離都市間交通としての機能が主になってくると、大中都市内駅、新幹線のアクセス駅等の改称が多くなると考えられる。

参考文献

野田正徳：「日本の鉄道～成長と展開～」、日本経済評論社、1986. 5

岩間光正：1993年「版」4月号別冊付録「駅名変遷辞典」、日本交通公社、1993. 4